

# 三十一 七五三祝祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理  
教 分教会長 慎んで申し上げます

この度親神様の広大無辺なお働きにより

の長女

は 七歳

の長男

は 五歳

の三女

は 三歳

になり 今日(きょう)のよき日(ひ) 七五三の御祝(お祝い)の日(ひ)を迎えさせて頂(いた)き  
ました

お陰様(かげさま)で毎日(まいにち)明るく元氣(げんき)に飛び回(まわ)っており その成長(せいちょう)ぶりを  
眺め(なが) 両親(りょうしん)を始め(はじめ)一同(いちどう)こよなき幸(しあ)せを味(あ)わって下(くだ)さっており  
ます

思(おも)えば私達(わたし)がぐっすり寝込(ねこ)んでいる間(あいだ)も 温(ぬ)み水(す)気(き)五(ご)分(ぶん)  
の御守(ごしゅ)護(ご)に浴(よく)し つく息(いき)ひく息(いき)など片時(かたとき)の休(やす)みもなく体(からだ)の  
隅々(すみずみ)までお見守(みまも)り下(くだ)さっている賜物(たまもの)であり 誠(まこと)に御礼(おんれい)の言葉(ことば)  
もございませ

この上(あ)は我(わ)が子(こ)といえども その実(じつ)は親神(おやがみさま)様の可(かわ)愛(あい)い子(こ)供(ご)を  
お預(あず)かりしているという自覚(じかく)と責任(せきにん)を改(あらた)めて心(こころ)に治(おさ)め 陽(よう)気(き)  
遊(あそ)山の世(よ)界(かい)づくりという親神(おやがみさま)様の人(じん)類(るい)創(そう)造(ぞう)の思(おも)召(めい)に添(そ)って  
今(こん)後(ご)は一(いっ)層(そう)世(よ)の為(ため)人(ひと)の為(ため)に精(せい)一(いつ)杯(ぱい)の真(ま)実(じつ)を傾(かたむ)けて参(ま)りま

す どうか親神(おやがみさま)様には先(ま)になり後(あと)になり いよ／＼親心(おやいこころ)深(か)くお連  
れ通(とお)り下(くだ)さると共(とも)に 今日(きょう)の喜(よろこ)びを持(も)ち場(ば)立(た)ち場(ば)を通(とお)し 広(ひろ)く  
地(ち)域(いき)社(しゃ)会(かい)の人(ひと)々(々)に移(うつ)せ

んでお願い(ねが)い申(もう)し上(あ)げます

すよう 指導(みちび)きの程(ほど)を一同(いちどう)と共(とも)に慎(つつし)